



安全衛生

# あれこれ

73

増田労働衛生コンサルタント事務所  
所長 増田稔久

## 大雪による怖い話

「NITE」ってご存知？」

昔話で恐縮ですが、約40年前に長野県大田市で4年間過ごしたことがあります。当地は風光明媚な大自然の懐に位置し、夏は涼しかったのですが、冬場が大変でした。連日自宅と職場で除雪です。作業はスノーダンプと呼ばれるスコップを大きくしたような道具を用いて手作業で行います。自宅では、毎朝、近所の方が雪かきを始める音で目覚まし、あわてて布団から飛び出し自宅前の道路を除雪しました。人や車が通ると雪が固くなるので、作業は早朝に行います。職場でも仕事はまづは除雪からでしたが、いい運動にもなりました。

雪が一晩に80センチ積もったこともありました。当地地元では、屋根の積雪が1m以上になると家屋の倒壊リスクがあるとわれ、屋根に上って雪下ろし作業を行いました。高所作業となるので安全帯を着用しましたが、どこにフックを掛けるか、親ロープをどのように張るかが課題でした。また軒先には屋根の雪が解けて氷柱がぶら下がります。氷柱は大きな建物ですと2mを超えるような大きさとなり槍のようです。工場には「氷柱の落下注意」と表示されていました。雪国特有の自動車に係る事

故を記憶しています。タイヤが雪に埋まって空回りし、前にも後ろにも進めなくなることもあります。タイヤと雪の間に板を挟み込み脱出を試みることも行われました。その際に回転したタイヤが挟んでいた板を跳ね飛ばし、車を後部で押していた被災者の腹部に激突したのです。被災者は死亡しました。回転体の前後の立ち入りには十分な検討が必要です。

共に屋根から雪の塊が落下してきました。屋根の雪は表面こそ雪ですが、中身は凍結して氷の塊となっておりコンクリートのブロックと変わりません。そんなブロック大の十数個の塊が軒先の地面等に落下しました。金属製のフェンスも折れ曲がるほどの衝撃でした。幸い人への直撃は免れたのですが、恐怖のヒヤリ経験でした。

さて、タイトルの怖い話です。ある穏やかな春先のことでした。玄関先で幼子を抱いて日向ぼっこをしていました。そんなのどかな日常に、突然にガタガタと大きな音と

ところで、雪と言えば、除雪機による災害があります。除雪機はむき出しの羽が回転して雪を吹き飛ばします。そこに人が巻き込まれる危険があります。それなのに安全機



「12.事故を防ぐ5つのポイント」ポスター  
(製品評価技術基盤機構HPより)



令和3年3月号  
掲載 機関誌  
『Meihoku』  
「安全衛生あれこれ」

能を無効にして危険作業が行われる実態もあるようです。そこで昨秋「NITE」(※)では除雪機の取扱いに關してリスク上の留意点をHPに公表しました(別掲ポスター参照)。これらの留意点は、他の車両系機械、食品機械等においても同様の課題であり、安全の基本知識を高めるためにも参考になります。同HPでは、ダミー人形を使った動画による災害の再現映像もあり分かり易いです。是非ご覧いただくことをお勧めします。

※「NITE」は経産省所管の独立行政法人製品評価技術基盤機構のことで「安全とあなたの未来を支えます」をスローガンとして、国民の生活や産業活動に使用される各種工業製品の安全情報をHP等で公表しています。

(参考) 除雪機による死亡事例は、本連載令和3年3月号にも掲載しています。下記QRコードからご覧いただくことができます。